



ガバナー補佐の重責

国際ロータリー第2510地区

2010-2011年度 ガバナー **佐々木正丞**

(札幌RC)

年末の12月18日（土）にガバナー補佐会議を開催しました。ガバナー就任後半年を閲して、通常、その大半の主要な任務の峠を越えた、という感じの頃合でしょうか。当然その席での報告は、各ガバナー補佐の担当クラブの問題が主なものでしたが、その場には「これで終わった」という雰囲気はまるでありませんでした。通例新年度がスタートして半年が経過した頃には、まだ半年任期は残っていますが、次の年次のガバナー補佐への引き継ぎ、或いは教育といった風の仕事が主であって、ガバナー補佐としては、まだ1、2回残っているクラブ訪問での連絡調整程度のものである筈ですが。

今回の会合では（本来は忘年会のようなものであって然るべきかもしれませんが）、「課題を多く残している」という向きの発言が多かったように思われます。忘れないうちに触れておきたいと思いますが、今回のガバナー補佐の人選に私は非常に恵まれたことを感謝しております。私がガバナーエレクトとして人選した、とはいっても、それは形式的な装いに過ぎず、実際には、各、12グループの意向を代表幹事がとりまとめたものでありますが、それにしても、今年度のこの地区の運営の難しさを、殆どの人が理解していたと思われ、小職の幸運に感謝する次第であります。

今年度のRIの方針は、すでに何度となく折りにふれて申し上げてきた通りクリンギンスミス会長は、「地域をつくり、大陸をつなぐ」と簡明に言うておられますが、これは100年におよぶロータリーの大きな方向転換を意図してのことです。ここではそれを詳述する余裕はありませんが、今一度かのポール・ハリスの言葉を想起していただきたいと思います。「世界は常に変化している。ロータリーはこの世界と共に変化して成長していかなければならない。ロータリーの物語は幾度も書きかえられなければならない。」この言葉の精神を今のRIは、ロータリーを世界的な運動にしていこう、（ポリオが良い例である）超我の奉仕の精神に基づいて、生き生きとした人道的な社会、前途有為な若い力をロータリアンとして育て、世界にその存在意義を訴えていこう、としているのであります。

この議論は、未だに進行形であり、具体化されてはおりませんが、私はこれらのことを熟考の上、この地区の3つの目標を定めた次第であります。

今、日本の社会は明日の見えない閉塞感におおわれ、萎縮した状態にあります。この地区のロータリアンの減少ぶりは、それ以上のものであると言わざるを得ません。私はこれを、CLP導入促進をもって、そして社会に貢献する奉仕活動を通じて打開し、いささかなりともガバナーという大任の責め的一端を果したいと考えた次第であります。これは言うは易いことですが、地区の組織全体を挙げて取り組んでいかなければならず、地区スタッフを含めて関係者の皆様の支えが欠かせないものであります。またロータリーの単年度制の補遺として、長期の視点での継続性を担保する上でも、現在規定にはありませんが、ガバナー補佐エレクト制（準備期間）の必要性・重要性が高まっているのではないのでしょうか。

良識あるロータリアンのご一考をお願いしたいと思います。